

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果概要をお知らせします

中学校全ての教科で全国平均を大きく上回る！

平成30年4月17日に「全国学力・学習状況調査」が行われました。

〔調査内容〕

- 小学校6年生、中学校3年生の全児童・生徒が対象
- 教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科の3教科
- 国語、算数・数学に関する調査は、「知識」に関する問題A、「活用」(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力等)に関する問題Bを出題
- 理科に関する調査は、「知識」に関する問題を主として「活用」に関する問題を一体的に出題
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

この調査は、教科に関する調査と質問紙調査とで構成されています。児童・生徒の学力の全てを見ることのできるものではありませんが、町内の各学校では、この結果を一つの手がかりとして分析し、成果と課題を明らかにして、今後の教育活動に生かしていくようとしています。

また、大山町教育委員会では、学校の取り組みの進捗状況を把握しつつ、教科に関する調査と質問紙調査を総合的に分析し、検討を行いながら、より質の高い教育の実現に向けて取り組んでいきます。

〔小学校算数は依然として課題が残る〕

○小学校6年生(表1)について、大山町の平均正答率は、国語A、国語B、算数B、理科で全国とほぼ

(表1) 小学校6年生	平均正答率 (%)				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
大山町	71	54	60	52	60
鳥取県	71	55	62	50	60
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
全国との差	0.3	-0.7	-3.5	0.5	-0.3

(表2) 中学校3年生	平均正答率 (%)				
	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
大山町	82	66	72	50	71
鳥取県	76	60	66	45	66
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
全国との差	5.9	4.8	5.9	3.1	4.9

同等の正答率になっていく一方で、算数Aではやや下回っています。

表からは読み取れませんが、小学校算数Bの「数と計算」の領域においては、全国より1.3%高く良好な結果となっています。しかし、算数Aの「図形」領域において、全国より6.8%低い結果であり、大きな課題です。具体的に図形を操作しながら、学習内容を理解していく必要があります。

○中学校3年生(表2)について、大山町の平均正答率は、国語A・B、数学A・Bともに全国を大きく上回っています。

表からは読み取れませんが、中学校数学Aの「資料の活用」の領域では、全国より10.1%高く、良好な結果となっています。

〔小中連携を通して授業改善を〕

大山町では、小中学校の連携を進めながら、各学校の授業改善に力を入れていきます。

町独自の学力向上事業である「大山町小中連携学力向上推進事業」に取り組み、9年間を見通した児童・

生徒の育ちと学びについて共通した取り組みを進めています。

また、町内の小中学校の教員で構成される町教育振興会の活動の中で、各中学校区の成果や課題について、情報共有し、児童・生徒にとって「わかる・できる」授業改善に取り組んでいます。

〔家庭学習の充実を〕

表3からもわかるように、大山町の子どもたちは「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」についての肯定的な回答割合が、中学校では全国

(表3) 質問事項	肯定的な回答割合				
	全国	鳥取県	大山町	全国との差	
小学校6年生	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	67.6	68.9	67.7	0.1
	家で、学校の授業の予習・復習をしている	62.6	63.7	57.7	-4.9
中学校3年生	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	52.1	54.5	65.1	13.0
	家で、学校の授業の予習・復習をしている	55.2	47.3	64.3	9.1

平均を大きく上回っています。今回の結果からも正答率と家庭学習の取り組みは相関関係があることがわかります。小学校での自主学習ノートの取り組みや中学校での定期考査にむけた取り組み、大山町版家庭学習の手引きの活用など、児童生徒一人一人が意識をし、さらに充実した取り組みを進めることが大切です。